

令和六年九月冠沓句

集句 二十三 句

神さまは心にみろくの世を与え

ひとまずは「はい」と答えて役を受け

三島 足立正文

せますぎる我よしあらため大和合

無農薬たべると旨い野菜かな

神さまは愛と善を好まれる

ひとまずは新米並びほつとする

三島 谷内いづみ

せますぎる心のすきに悪やどる

酷暑下に植えても枯れる野菜かな

せますぎる四畳半裡の元宇宙

人の身も魂も養う野菜かな

三島 神門明子

ひとまずはやつてみるかと動き出す

神さまは大和魂待たれおり

神さまはいつも見ると孫に言い

ひとまずは頭を冷やす休戦を

貝塚 伊藤 香

せますぎる孫七人に親六人

堆肥やり猛暑に耐えた野菜かな

神さまはなやみし時の助けびと

ひとまずは足もと見つめご奉仕を

城東 柳川 祐子

せますぎる二代さま歌よみかえし

シート状防災ストック野菜かな

神さまは世界はひとつと笑顔みせ

ひとまずは祈る心をわすれずに

三島 足立しげ子

せますぎる窓から月見る十五夜の

天位 ひとまずは足元見つめご奉仕を

城東分所

柳川 祐子